

「イヤホン会話」に口頭で注意できる店が、流行る。

文・イラスト 中谷彰宏

text & illustration by Akihiro Nakatani

飲

食店のセールスポイントは、静けさになりました。

かつては、賑わいでした。

あるカフェに行きました。

1階と2階があるお店でした。1階が混んでいたの、2階を選びました。

2階は、1階に比べて、はるかに空いていました。まもなく、2階が空いている理由がわかりました。

ウェイターさんは、感じのいい男性でした。

静かな空間の中で、話し声が聞こえてきました。全員一人客でした。一人の男性が、パソコンを開けて、スマホのイヤホンモードで話していたのです。静かな空間だけに、余計、その声が響いていました。

コーヒー専門店が、静けさの中で

そ、味わえます。二人組のお客も、小声で話すのがマナーです。

店内のあちこちに「スマホ・イヤホンでの会話はご遠慮ください」の表示が出ていました。オーダー用のタブレット・メニューにも「スマホ・イヤホンでの会話はご遠慮ください」の表示が、再三出ます。

イヤホンで話している男性は、切る気配はありませんでした。急にかかってきた緊急電話に、しかたなく出て、さっと切り上げる気配があるなら、まだ許せました。彼は、むしろこのお店に、イヤホンで打ち合わせに来たのです。

仕事はドクターで、いかに、ステージ4の患者さんや合併症のある患者さんを断るかという打ち合わせをしていました。という詳細がわかるくらい、聞こえていたということです。

1階が混んでいるのに、2階がガラガラなのは、これが原因でした。2階に上がってきたお客さんが、ムツとして帰るからです。

お客さんは、思いやりのないドクターにムツとしたのではありません。話し続けるお客さんに注意を促さないスタッフに、ムツとしたのです。

注意書きがあるだけでは、静かになりません。



Profile

1959年生まれ。主な著作に「グズグズしない人の61の習慣」「50代がもっと楽しくなる方法」「頑張らない人は、うまくいく」他1000冊を越す。

【中谷塾】で講演活動を行う。詳しくは、HPで。

<http://www.an-web.com/>